

座談会・非正規職員からみた公共図書館

公共図書館非正規職員 2 名・呉屋美奈子

■司書になろうと思ったきっかけ

——本日は、お忙しい中、座談会にお集まり頂き、ありがとうございます。これから、現場で働かれている非正規職員の皆様から見た公共図書館の雇用問題について、いろいろなお話をおうかがいしたいと思っています。早速ですが、皆様の勤務経験を教えてください。

司書A(以下A) 私は今年の4月から公共図書館に勤務しています。

司書B(以下B) 私も現在1年目です。大学生時代は、大学図書館でアルバイトをしていました。それを含めるとだいたい2年の経験になります。

——本日は、現場で働かれているお二人に加えて、雇用問題のアンケート調査(p)の分析をご担当いただいた、呉屋美奈子さんにも参加していただきたいと思います。

呉屋 私は現在、図書館学の大学院博士課程後期に在籍しながら、司書課程の非常勤講師として、県内の司書養成に関わっています。公共図書館ではありませんが、専門図書館に非正規職員として勤務していた経験もあります。本日は非正規職員のお二人とともに、公共図書館の雇用問題について考えてみたいと思います。

——皆様は大学で司書資格を取得し、図書館学のゼミを専攻していたそうですが、いつ頃から司書になりたいと思っていたのですか？

A 小さい頃から本が好きで、中学校、高校時代には図書委員をやっていました。小さい頃からよく通っていた図書館の雰囲気がとても良かったので、自然に、自分もこんなところで働けたらいいなあ、と思うようになっていました。

B 私も図書委員をやっていました。ずっと読

書が好きだったので、図書館の仕事をしてみたいなあ、という漠然とした憧れがありました。非正規職員、という形ですが、その夢が叶ったので、今はとても嬉しいです。

——図書館員になりたいと思ったのは、本や図書館という場所が好きだから、ということだったのですが、利用者に対してこんなことをしてみたい、というイメージは持っていましたか？

A 大学に入学する頃はまだ図書館のサービスについて深く理解していなかったもので、あまりはっきりしたイメージは持っていませんでした。ただ、大学に入ってから、司書の仕事について学び、基本的人権である「知る自由」の保障という理念の下で、利用者が必要とする情報を徹底的に探して、確実に提供する、という役割を知って、いい仕事だなあと思った。

B 私もそうです。大学時代は資格取得にかなり苦労しましたが、図書館の社会的な役割を知って、図書館がますます好きになりました。

——皆様は現在、公共図書館で働かれていますが、学校図書館や大学図書館などの他の館種でも働いてみたいと思いますか？

B 館種に対するこだわりは特にありません。大学に入る時は、司書＝公共図書館の仕事と考えていたので、学校図書館で働くことはイメージしていなかったのですが、図書館学の授業の中で、沖縄県は、全国に先駆けて学校司書が全県的に配置されていて、学校図書館のサービスが充実していることを知って、とても興味が湧きました。

A 私も特にこだわりはありません。学校図書館への団体貸出サービスに関する仕事を任されているのですが、学校図書館の司書の方との対

応の中で、学校図書館の仕事も面白そうだなあ、
と思えてきました。機会があれば、ぜひやって
みたいです。公共図書館でも、学校図書館でも、
司書として仕事ができればどちらでもいいです。

■公共図書館のおもしろさ、難しさ

——公共図書館の仕事は楽しいですか？

A ずっとやってみたかった仕事なので、毎日
が充実しています。もちろん、辛いこともたく
さんありますが、カウンターで利用者に対応し
ていて、利用者が探している本や情報を見つけ
て提供したときに、「どうもありがとう」と言っ
てもらえることがすごく励みになっています。
利用者の方の中には、本を貸しただけで「あり
がとう」と言って下さる方もいるのですが、働
き始めた頃は、税金をもらって働いていて、た
だ本を貸しているだけで「ありがとう」と言っ
てもらうのはとても恐縮していました。むしろ
こちらが「ありがとう」と言わないといけない
のではないかと思ったりして……。でも最近は、
レファレンス業務に近いことも任されるよう
になってきましたので、利用者が本当に私のサー
ビスを受けて感謝している、そうしたことを実
感できるようになったので、毎日、とてもやり
がいを感じています。

B そうですね。私も同じように思います。や
はり、利用者へ、心から「ありがとう」と言っ
てもらえるようなサービスをしたいと思ってい
ますし、実際に言ってもらったらとても嬉しい
です。反対に、利用者が求める本や情報を探し
出せなかった時は、ものすごく落ち込みます。

——図書館によっては、非正規職員の職域が、
簡単なカウンター業務に限定されているケー
スもあるのですが、皆様はレファレンスサー
ビスや選書、行事運営など、かなり高度な技術、
知識を求められる仕事も任されているのです
か？

A 私が勤務している図書館では、非正規職員

だからと言って、特に職域の限定はないと思
います。もちろん、正規職員の方が最終的な判断
をされますが、選書などの意見を求められます
し、カウンター業務では、レファレンスも担当
しています。広報や館内掲示などの図書館 PR
なども任されているのですが、自分のアイディ
アをどんどん取り入れて貰うこともできます。

B 私の職場でも、非正規職員だからといって、
特に単純作業ばかりを任されるということはお
りません。臨時採用の際にも「司書資格取得者」
という条件がありましたし、非正規職員の数が
多いので、即戦力として期待されているとい
うふうに感じています。まだまだ勉強中なです
が、期待されている分、きちんと応えていき
たいと思っています。それと、日常的な仕事
の中で、問題点や改善点など、気が付いた点
があればどんどん発言するように言われてい
ますので、非正規職員という立場ですが、責
任の大きさも感じています。他の地域の非
正規職員の中には司書資格を持っていない
人もいますが、「基本的なことはできて当
たり前」「知っていて当たり前」という
ところから非正規職員の仕事が任されて
いるので、やはり資格がないと勤ま
らない仕事だと思います。

——これから司書として、また、専門職として、
どんな仕事をしていきたいと思ってい
ますか？

B 私がかつてそうだったように、公共図書館
に対しては、「本を貸してくれるところ」とい
うイメージしか持っていない利用者もまだ
多いと思います。私が勤務している図書館
の広報(図書館だより)は、これまで行事
案内の掲載が中心でしたが、それだと、行
事の時にしか図書館を利用してもらえな
いように思うので、もっともっと図書
館が生活に密着して、市民生活に役に
立つものだ、ということをして PR でき
たらいいなあと思っています。とにかく
たくさんの方に図書館を利用してもら
いたいのです。

A 私も、図書館の利用の仕方をもっと知って欲しいと思っています。レファレンスサービスやビジネス支援に力を入れていることをどんどん前面に出してアピールすれば、図書館に対する社会的な評価も上がっていくと思います。

——Aさんから、図書館の専門性をアピールすべきだという意見が出ましたが、呉屋さんは、司書養成の立場から、これからの図書館員はどのように司書の専門性、図書館の必要性をPRしていくべきだと思いますか？

呉屋 私も、潜在的ニーズに対応する力がこれからの図書館の生き残り策だと思っていますので、潜在的利用者に対するPR活動は重要だと思います。ただ、「図書館だより」だけでは、実際に来館されない方に利用の仕方を全て知ってもらうというのは難しいように思います。利用者が必要とする情報を提供するのはもちろんですが、その方法として、現在のようにカウンターに来るニーズだけに対応しては、地域へのアピールになるでしょうか。例えば、地震や災害の際に新聞や図書を避難所へデリバリーするという活動をしていた図書館がありました。待っているだけではなく、図書館から情報が必要な利用者へ積極的に出向いていくこと、そういうことも含めて図書館から情報発信していかなければならないと思います。あらゆるメディアが発達している現在、図書館が行えるサービスにも幅が出てきたように思います。若い皆さんが、工夫を凝らして、あらゆる方法で新しい図書館サービスが出来るようになるといいですね。

■雇用条件・雇用環境に対する不満

——給与や残業手当などの雇用条件、雇用状況に不満はありませんか？

A 私はまだ勤務して1年目ですので、自分の能力を考えれば、給料が少しくらい民間よりも安くても、贅沢は言えない、言っただけいけない

と思っています。今は、給料を頂きながら、好きな仕事ができ、勉強させていただいている、という感覚が強いので、特に不満はありません。ただ、交通費が少しかかるので、その点は保障されていたらいいなあと思うことはあります。

B 私は、住んでいる自治体で図書館の非正規職員の採用がなかったため、今はかなり遠い場所の図書館に通っています。交通費が出ないことは承知していましたが、少しでも手当を頂けたらいいなあと思います。

——残業はありますか？

A 急いでいる仕事があるときは残業することもあります。それでも1時間程度で終わらせるようにしています。本務の職員の方から、「非正規職員には手当が出ないので、残業はしないように」と言われています。

B 残業は少しあります。残業費は保障されませんが、民間の会社でも残業はあると思うので、それほど不満はありません。

■図書館行政に対する意見

——現在、多くの自治体で、正規職員を減らし、非正規職員を増やしています。こうした県内の図書館行政についてどう思いますか？

B やはり公務員として、安定した身分で働きたいです。非正規職員の身分でずっと司書の仕事ができる保障はありませんので、司書の枠がある限りは、しっかり勉強して、公務員試験に合格したいと思っています。私の友だちにも、司書志望の人はたくさんいますので、公務員の枠を広げて欲しいです。

A 私もそうです。今はまだ年齢も若いし、自宅から通っているため、非正規職員の給与でもなんとか生活ができますが、非正規職員の給与は据え置きで上がりませんので、将来の不安がとて大きいです。仕事にも少し慣れてきたので、来年に向けて公務員試験の勉強をしようと思っています。ただ、県や市の司書職の採用枠

が来年度、どのくらいあるか不安ですが……。

——呉屋さんは、今のお二人の意見についてどのように感じましたか？

呉屋 司書を続けたいが待遇面で不安があるので、公務員として働きたい、ということです。そう思っている非正規職員の方は多いと思うのですが、図書館が指定管理者制度の適用の範囲内になっているという問題を忘れてはならないと思います。仮に、皆さんが公務員の司書枠で採用されたとして、その館が指定管理者制度の導入を決定したらどうするのでしょうか。そうなった場合、司書枠で採用されていても、一般事務職に異動になる可能性が出てきます。どうしても図書館にこだわるなら、委託先に転職しなければならない、ということになるのですが、給与が下がりますので、実際には難しいと思います。公務員の司書枠で採用されたからといって必ずしも安泰でないのが現在の図書館が置かれている立場だということを理解しておく必要があると思います。

——公務員になっても司書として働くことができない可能性もあるというのは大きな問題提起だと思います。指定管理者制度については、後ほど意見をおうかがいしたいと思いますが、もしこれから先、沖縄県の司書全員が非正規職員に切り替わったら、どうしますか？ 公務員として図書館に勤務する可能性がゼロになった場合、非正規職員でもいいので、やはり図書館の仕事を続けたいと思いますか？

B どうするか、という問題ではなく、とにかく利用者が困ると思います。私が勤務する自治体の非正規職員の雇用年限は1年間なので、どんなに頑張っても1年後には採用された非正規職員全員が総入れ替えになってしまいます。せっかく1年かけて勉強したこと、身につけたことがその図書館に蓄積されずに、また翌年リセットされる、というのは、自治体のサービスのあり方としてとても疑問に思います。

A 私が勤務している図書館でも、非正規職員は1年で解雇されます。ですので、私が採用された時も、1年目の非正規職員ばかりで、最初の1、2ヶ月はサービスの体制がガタガタでした。能力試験を受けていない非正規職員が長く勤務し続けるのは不公平だと思うので、非正規職員に任期があるのは当然ですが、正規職員の門戸を完全に閉ざして、非正規職員だけにしてしまえば、図書館サービスの質が安定しない上に、発展していくこともないと思います。沖縄の図書館が停滞してしまうことを分かっているのに、それを続けている行政には一市民としても不満を感じます。

A 今は実家から通っているのですが、やはりいつかは独立しないといけません。そうすると、1ヶ月に10万円ちょっとの給料では、生活ができません。好きな仕事を続けたい気持ちもありますが、将来のことを考えると、いつかは踏ん切りをつけないといけなくなると思います。

B 私も同じように生活の不安を感じると思います。できるだけ図書館に関わる仕事を続けたいという気持ちもあります……。休日に他の仕事をして補ってでも司書の仕事ができるなら、続けたいです(実際には、非正規の公務員もアルバイトはできないのでそれは無理ですが)。ただ、今はまだ若いので、こんなことを言っているだけなのかもしれません。年齢を重ねていくにつれて、やはり不安になってくると思います。

呉屋 お二人とも司書という職にこだわりはあるものの、公務員という保障された立場でなければ、続けるのが厳しいということですね。しかし、実際に、職員全員を非正規職員に切り替えている例は今や県外では珍しくありません。利用者が困るのではないかという意見ですが、そういう議論を踏まえた上で非正規職員を採用するという決定を下している自治体が存在する

ということは、やはり、日本ではまだまだ司書の専門性が認知されていないといえるのかもしれませんが。あるいは、専門性が十分に活かされない図書館運営をしてきたせいで、図書館自体が高いサービスを提供することを諦め、司書の専門性がいらぬという現状をつくってきたのかもしれませんがね。そうした意味では、私も含めて、図書館に関わる人たち全員が、反省しなければならぬ問題も多いと思います。

——さきほども呉屋さんから少しお話が出ていましたが、財政状況が苦しい自治体では、今後、学校図書館も含めて、司書職を民間会社やNPOなどの指定管理者に委託する可能性もあります。委託した場合、非正規職員のように1年で任期が切れることはなくなるとは思われませんが、民間企業やNPOからの派遣職員として司書を続けたいという気持ちはありますか？

A 本当は、公務員として司書になりたいのですが、公務員の枠がほとんどない状況なので、長く図書館の仕事ができるなら、業務委託でも、図書館の仕事に関わりたいと思います。

B 全国的に指定管理者制度が動き出しているとよく話を聞きますので、沖縄でもこれからきっとそうした動きが出てくると思います。私も図書館に関わり続けることができれば、どのような形でもいいと思っていますので、派遣職員でもいいと思います。ただ、現場にいるとそうした情報があまり入ってきません。給与や保険の有無など、もっと情報が欲しいと思います。

呉屋 指定管理者制度については、皆さん誤解されがちなのですが、実際の問題として、業務委託になったからといって、給料が上がるわけでもありませんし、手当てが現状の非正規職員より良くなる保障もありません。コスト減の為に指定管理者制度を導入するわけですから、今より安いコストで運営するというのが、指定管理者制度を導入した事のメリットとなるわけ

ですね。場合によっては、指定管理者制度を導入する事によって“司書の価格”は更に安いものになるかもしれません。それでも、続けられたら司書でいたいと思うでしょうか。誰でも出来る仕事ではなく、“専門職である”司書に魅力を感じているのなら、低コストで一生働けというのに不満は出てこないでしょうか？ 私の個人的な意見としては、指定管理者制度でもいいから働かせてほしい、と自らの価値を下げるようなことをするのはなく、まずは行政、住民にも司書の力をアピールする事が大事なのではないかと思っています。

——本日は、現場の皆様のお話を聞くことができてとても参考になりました。皆様が、不安な気持ちを抱えながら、それでも前向きに、ひたむきに図書館の仕事にたずさわっていることを知ることができ、大変頼もしく思うと同時に、こうした若い方々の熱意を自治体や地域の人たちにきちんと伝えていかなければならない、と改めて思いました。本日は2名の方にお話をうかがいましたが、皆様のような非正規職員の方は県内にもたくさんおられると思います。皆様のお話を聞きながら、もっとたくさんの方々に、現在の図書館行政に対して感じていることを発言して欲しいと思いました。また機会があれば、こうした機会を研究部会で設けたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。

一同 ありがとうございました。

(実施日時：2005年11月3日10時～12時
／司会・記録：山口真也)

ごや みなこ：筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程

やまぐち しんや：沖縄国際大学